

はじめに

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団
調査研究委員会・担当理事
浅見俊雄

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団では、財団独自の調査研究活動として、2012（平成 24）年度から日本の障害者スポーツの現状に関する社会学的な調査研究を、その分野の専門的な研究者による研究班を組織して、毎年テーマを設定して行っている。これまでの研究成果は、年度毎に報告書を作成して刊行している。4年目となる 2015（平成 27）年度の障害者スポーツに関する調査研究の成果を纏めたのが本書である。

第1章では、障害者スポーツの現状と課題について、これまでの調査研究とその内容の概要について紹介し、更に 2015（平成 27）年度の取り組みに至った経緯を説明している。

第2章では、2015（平成27）年9月に開催された2015ジャパンパラ水泳競技大会、及び陸上競技大会の出場選手を対象に行ったアンケート調査の分析結果を報告している。日本のトップ及びそれに近いレベルの競技者を対象として、競技を始めたきっかけなど、競技者としての入口からスポーツ実践の環境の実態と課題を分析したものである。学校体育とのかかわりを含めて、多角的にパラリンピアンをスポーツを取り巻く様々な環境の現状を知ることが出来る内容である。

第3章では、今回で3回目となる公開シンポジウムについての報告である。2015（平成27）年7月4日に大手町の会議場で開かれた「パラリンピック選手発掘・育成・強化システムの現状と今後の方向性について」と題するシンポジウムは、当財団調査研究委員会の藤田委員がコーディネーターとなり、障害者スポーツの組織の役員、競技者がパネリストとなって行われ、活発な意見が交わされた。

第4章は、これまでの調査研究から、障害者スポーツへの入り口が狭いという実態が、明らかにされてきたことに対する解決策の実践モデルとして、横浜市教育委員会など多くの団体の後援を得て、2016（平成28）年1月30日に横浜ラポールで障害者スポーツ体験イベント「目指せ！未来のトップアスリート！」を行った内容を紹介している。当財団として初めての実践的な試みであったが、経験豊かな指導者のもとで、地元の車椅子バスケットボールチームの協力を得て、参加児童、生徒は障害の有り無しを越えて、車椅子バスケットボールを存分に楽しんだイベントであった。

これらの報告が、日本の障害者スポーツの現状と課題をより広く知っていただくことと、その改善のための取り組みがより一層進展することに活用していただけることを願っている。なお、当財団では 2015（平成 27）年度から「トップスポーツの現状と課題」に関する研究テーマについても調査を始めており、この内容については別冊で報告書を刊行しているので、それも参照していただきたい。